

最新刊

最新刊 旅行者動向2013 最新刊
最新の旅行の実態や旅行者の意識に関する全国アンケート調査結果を、当財団独自のさまざまな切り口で分析。グラフや図表を多用して分かりやすく解説。政策立案や事業展開などに幅広く活用できるマーケティングデータ集。二〇一三年十月発行。



最新刊

最新刊 観光地経営の視点と実践 最新刊
観光地の持続的発展にとって、今や「観光地を経営する」という地域マネジメントの考え方が重要。本テキストは、既存観光地の現場で日々努力し、活躍されている方々が主な対象。「観光地経営」を一定の方針（ビジョン）に基づいて、観光地を構成するさまざまな経営資源、推進主体をマネジメントするための一連の組織的活動」と定義し、八つの視点と十の実践例について、その考え方や展開手法を解説。当財団調査研究専門機関五〇周年記念事業の一環として発行。二〇一三年十二月発行（丸善出版）。



最新刊

最新刊 機関誌「観光文化」221号 最新刊
当財団が実施してきた自主研究の成果等を交えながら、国際的な視野から経済、地域計画、交通運輸、マーケティング、造園学といった学問領域と観光との関わりを紹介。海外における観光研究の知見の日本への移入や適用、日本からの発信手法や今後の観光研究の方向性についての提言を試みた二冊。二〇一四年四月発行。（季刊）一四七十月。



最新刊

最新刊 美しい日本 旅の風光 最新刊
調査研究専門機関として五〇周年を迎えたことを期に、当財団が長年取り組んできた「日本における観光資源の評価に関する研究」の成果を基に監修。北海道から沖縄までをエリアごとにまとめ、風景だけでなく、伝統文化、神社仏閣、温泉、街、食、祭り、芸能など、いつまでも残しておきたい日本の大切な資源として紹介。完全英語訳付きで海外の方にも広く日本の観光資源の魅力をお伝えできる一冊。二〇一四年五月発行（JTBパブリッシング）。



※当財団出版物のご注文はホームページからお願ひします。
担当：公益財団法人日本交通公社 観光研究情報室
電話 03-5225-6073 <http://www.jtb.or.jp>

次号予告

「温泉」は日本人の行きたい旅行の上位に挙げられます。しかし、温泉地の多くは消費者ニーズの旅行形態の変化に対応できず低迷を続けています。消費者の旅行に求める価値が時代とともに変化していく中で、温泉地が持続的に発展していくためには、常に時代の変化に感覚を研ぎ澄ませ、時代を超えて変わらない価値のあるものを踏まえつつ、温泉地づくりを実践していくことが大切です。そこで次号では、温泉地における不易流行について考えます。温泉地づくりに熱心に取り組む地域のリーダーが語る地域の現状認識と将来展望、温泉地研究の第一人者からの提言に加えて、「温泉まちづくり研究会」(当財団自主研究)の研究成果等を踏まえて、温泉地、温泉旅館の課題と展望を考察していきます。

当財団からのお知らせ

「2014年度シンポジウム・セミナーのご案内」
当財団主催の今年度シンポジウムセミナー既開催予定についてご案内します。

●平成二十六年 観光地経営講座 既開催
「観光地経営の八つの視点と実践」組織を見直して実力を高める！」

二〇一四年六月二十六日(木)～二十七日(金)
会場：当財団大会議室(朝日生命大手町ビル17階)

二〇一三年十一月発行の「観光地経営の視点と実践」をテキストに、今回の講座は特に「組織人材」に焦点を当てて開催しました。当財団研究員の他、八ヶ岳観光圏、富士河口湖町で観光地経営に携わる実践者が講師を務め、各地の取り組みを解説。総括ディスカッションでは、受講者も交えた意見交換を行い、参考にすべき点などを整理しました。同講座は来年度も開催する予定です。

●旅行動向シンポジウム(仮称) 下期開催予定
当財団独自の旅行市場調査および観光政策に関する調査の研究成果発信の場として、財団研究員とゲストスピーカーが発表を行う予定です。現在準備を進めています。最新情報詳細については、準備ができ次第、ホームページのインフォメーションのご案内します。

当財団ホームページ URL: <http://www.jtb.or.jp> トップページ

「研究員コラムの紹介」(二〇一四年三月～五月)

行く先々で見て触れて、そして地元の人たちと語り、感じたこと。世相のなかに見た観光の未来像など、各研究員が独自の経験と視点を基にして、ホットな雑感を綴ります。当財団ホームページ「研究員コラム」に掲載した三カ月分をご紹介します。【研究員コラム】で検索できます。

- 209 映画は観光地のイメージをどう変えるのか? (外山昌樹)
- 210 環境と共生するリゾート・カナダ・ウィスラーを訪れて (中島泰)
- 211 文化財保護に観光客の力を借りよう (西川寛)
- 212 「遊び心」が高める地域の魅力 (福永香織)
- 213 「地味な珍しさ」にも注目して地域の魅力発見を (堀木美告)
- 214 「聖地」における観光のあり方について (牧野博明)

編集後記

◆私たちが海外での見聞を広めることができようになつて、観光対象としての資源は実に多様になっています。外国人にも紹介したくなるような我が国が有する素晴らしい観光資源がどういうものか、いわゆる「日本らしさ」とは一体なんだろうか。

◆風景を眺めると、日本人なら「ああ、日本らしい風景だなあ」と直感的に認識することがあります。自然資源ではそう言えることが多いかもしれませんが、人文資源ではどうでしょうか。人は、自身の目、耳などの五感を通して心のフィルターを通してモノを捉えています。価値を見いだすために評価軸あるいは視点を設定して、今日的価値基準で客観的に観光資源を評価・選定した研究プロセスと成果を紹介しました。

◆観光資源の「場」に行くこと、居ることに価値を見いだせるか、決定する根拠になる評価基準を示しました。皆さまの二つの判断材料になることを期待しています。(片桐)

観光文化編集室メールアドレス:
kankouhunka@jtb.or.jp

【観光文化220号 お詫びと訂正】
6ページ 特集1 1段目6行目

著者溝尾良隆氏から、後日オリジナルのジャフアリ氏の論文にあつたところ、二十分野ではなくて二十一分野が正しいことが判明したと連絡がありました。

【観光文化221号 お詫びと訂正】
36ページ 特集テーマから視座

3段目5行目 二カ所
「他者依存型」(正)「他社依存型」(誤)
以上、ここに訂正してお詫び申し上げます。
(観光文化編集室)